第 15 期第 1 回国立市ごみ問題審議会　議事録

日　時　令和 8 年(2026 年)6 月 22 日(月)　午前 10 時～午前 11 時 45 分
場　所　国立市役所会議室棟さくら・うめのへや
出席者　山﨑会長、宮脇副会長、碓井委員、北村委員、小林委員、佐藤委員、田中委員、長嶋委員、二宮委員　（委員は 50 音順）
事務局　松田生活環境部長、吉村ごみ減量課長、髙橋ごみ減量課長補佐、深谷清掃係長、川島環境センター所長

【議事要旨】

1.　市長挨拶

2.　委嘱

3.　事務局職員紹介

4.　委員紹介

5.　会長・副会長の選出
委員の互選により、山﨑委員が会長、宮脇委員が副会長に選出された。

6.　諮問
以下の件について、市長から会長に諮問した。
- 国立市循環型社会形成推進基本計画に基づく進捗状況の評価について

7.　審議会の運営について
原則として会議は公開することとし、傍聴を認めることとした。
また、原則として発言委員名を明らかにした会議録(要点筆記)を作成し、市ホームページで公開することとした。

8.　今後のスケジュール(案)について
事務局から今後のスケジュール(案)について説明した。
- 第 3 次計画の初年度であることから昨年度の振り返りや施設見学を予定している。
- 今後のスケジュール(案)に基づいて審議する。
- オンラインによる審議会の参加も可能とする。

9.　国立市のごみの現状と課題について

資料に基づき、事務局から国立市のごみの現状と課題について説明した。

【小林委員】

多摩地域の中で国立市の進んでいる取組と逆に、弱い点等を教えてください。

【事務局】

環境センターの作業員が丁寧に手選別で分別を行い、リサイクルに取り組むことで、いち早く埋め立てゼロを達成・継続しているのは市として頑張っている点です。市民の方の意識が高いことから家庭ごみの減量は進んでいます。また国立市発祥である生ごみを消す堆肥化容器ミニ・キエーロを推進しています。また、今後の課題としては少しずつでも資源化につなげ、ごみの量を減らしていくことを進めていきたいです。

【会長】

そのほかパッカー車の火災等のアクシデントが少ないのもありますよね。

【碓井委員】

基本計画の中で総ごみ排出量の減量を目標として掲げ、今後総ごみ排出量を段階的に減らしていく施策を行うにあたり、市民の方への啓蒙だけでは難しいと思われるが、どのような施策を行うことでこれを実現していくのかお聞かせください。

【事務局】

まずごみを出さない、発生抑制が一番大事だと考えています。次に出てしまったごみはリユース・リサイクルという形で資源化・循環型社会を目指していきたいです。国立は EPR 拡大生産者責任を掲げており、販売店に戻していくところも進めていきたいです。

【碓井委員】

EPR を施策の中で目標に掲げているのが非常に特徴的だと思うが、ごみを排出元に戻すとになると、引っ越しの際に出るごみをリユースして市場に戻るような形でごみにならないよう施策を進めていくということだと思うのですが、そのようなことの市民や特に学生へのイベントの時の徹底はどのように行っているか。

【事務局】

イベントに関する取組としては年に一度実施している環境フェスタではごみを出さない取組を行っており、各出展者の方に対して基本的にそのお店がから出たごみはすべて回収して持ち帰っていただくようお願いしています。

また市民へは購入した販売店に返せるものについては、なるべく販売店に返していただくよう案内しています。販売店に返却されたものが中間業者等を通じて製造元へ戻ることで、製造元において製品の設計段階から、環境負荷が少なく再資源化しやすい製品づくりに長い目で見ればつながるため、この取組を進めていきたいと考えています。

拠点回収についてもいくつかの事業者と協定を締結し、主にコンタクトレンズ・シャンプーボトル・ヤクルト容器の回収を実施しています。

国立市エコショップ認定店で卵のパックや牛乳パックなどを店舗で回収しております。市ではどの店舗でどのような品目を回収しているかをカレンダーやホームページ等で周知しています。
これらの取組を通じて、事業者による自主回収を促進しEPRの推進につなげていきます。
【碓井委員】
可燃ごみを減らしていくことは、大きな課題であると思います。最近気になっているのは食品ロスの問題です。これは国立市に限った話ではなく、全国的な課題であると認識しています。食品ロスの中でも、手つかずの食品について伺いたいと思います。調理くずが一定程度発生することはやむを得ない面もあると思いますが、手つかず食品については削減できる余地があるのではないかと考えています。この点について、今後減らしていくための具体的な取組があれば教えていただきたいと思います。
【事務局】
国立市ではスーパーやコンビニエンスストア等で「てまえどり」の啓発を進めています。啓発物を掲示し、賞味期限や消費期限の近い商品から購入していただくようよう促しております。直接廃棄については必要なものを必要な分だけ購入し余計なものは買わないという「エシカル消費」の啓発を進めていきたいと考えております。
【山﨑会長】
食品ロス削減のフードマッチングサービス「Kunitachi×タベスケ」について説明をお願いします。
【事務局】
小売業者等で売れ残る可能性のある食品を市民とマッチングする仕組みとなっております。市民の皆様にとっては対象食品を比較的安価に購入でき、事業者は廃棄を減らせるため、双方にメリットがあります。是非ご活用いただければと思います。
【山﨑会長】
可燃ごみの中でも生ごみなどの食品廃棄物は大きな割合を占めています。水のひとしぼりも啓発を進めていまして、市報など紙媒体で配布されているものについても、最近ではアプリ等を活用してデジタルで確認できるようになってきています。紙での配布を必要に応じて見直すことで、紙ごみの削減にもつながると思います。この点についても議論していければと思います。
【小林委員】
家庭ごみの方は頑張っているようですが、事業系ごみを何とかしなければならないと思うのですが、そこに対し小売業者や飲食店などに踏み込んで働きかけるような取組はあるのでしょうか。
【事務局】
確かに事業系ごみについては行政がなかなか入り込みづらい面がありますが、国立市では一定規模以上の大規模排出事業者や一定以上の面積を有する事業所に対して、ごみの排

出計画を毎年 1 回提出していただき、その計画に基づき計画的に排出量を減らしていくことをお願いしております。また、2 年に 1 回程度ではありますが、対象となる事業所を訪問し、ごみを保管状況や排出状況を確認しております。その際、排出されたごみを単に焼却処理に回すのではなく、バイオガス化や堆肥化など循環型社会やリサイクルの推進につながる方法についても活用していただくようお願いしております。

10. その他

(1)次回以降の日程について事務局から下記のとおり説明した。

- 第 2 回については、二ツ塚最終処分場の施設見学を 8 月 20 日に予定している。
- 第 3 回は、11 月の開催を目途に開催を予定している。

(2)その他

【事務局】

議事録の修正や確定について、田中委員と長嶋委員は紙で、それ以外の方はメールでやり取りすることとした。

審議会資料についても紙資源節約の観点から先ほどの 2 名の委員以外の方はデータ送付を基本とし、当日の机上配布はしないこととした。

また会議当日は、データを閲覧できる端末をご用意いただく旨をお伝えした。

【山﨑会長】

委員のみなさま本当に貴重なご意見ありがとうございました。今後もみなさまと協力して情報を共有し課題を明らかにしながら解決に向けて取り組んでいければと思います。

以上をもちまして、第1回国立市ごみ問題審議会を閉会します。